

東北支社 新春企画

平成 年 月 日建設通信新聞

他地域に比べてインフラ整備が遅れている東北地方においては、依然として新たな社会資本の整備が不可欠だ。一方で、戦後に整備された道路、橋梁、建築物など、多様広範囲にインフラの老朽化が進み、既存ストックの維持・管理・更新の重要性が改めて浮き彫りとなっており、各管理者は厳しい財政状況が続く中、維持・管理費のウエートを高めている。こうした状況を踏まえ、さまざまな構造物の中でも特にストックマネジメントの意識が普及している橋梁に焦点を当て、長寿命化に向けた課題や求められる方策について探った。

橋梁点検

東北地方で国や県、市町村が管理している長さ15以上の橋梁は、約1万8500橋ある。このうち、建設から50年以上が経過した、いわゆる「高齢橋」は現時点で1割弱だが、10年後に約2割、20年後には約5割へと、急激に増加する。

老朽化の影響は、すでに顕在化している。東北地方整備局のまとめによると、6県および市町村が管理している橋梁のうち、通行止めや通行規制が行われている橋梁は2009年4月時点の404橋か

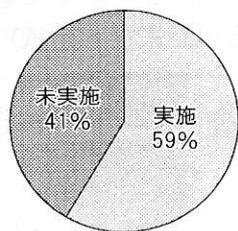
ら10年4月は472橋となった。わずか1年で2割弱も増えており、今後もさらなる増加が予想される。

こうした状況の中で、橋梁の管理者が第一に取り組むべきは、橋梁の点検だ。

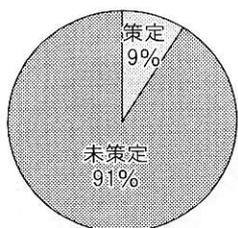
東北地方整備局では、橋の開通後2年以内に1回目の点検を行い、2回目以降は5年以内を実施して健全性を確認、補修に役立てている。

6県および仙台市が管理している約6500橋についても10年4月時点でほぼ100%点検を終えている。

東北の市町村における橋梁点検実施状況



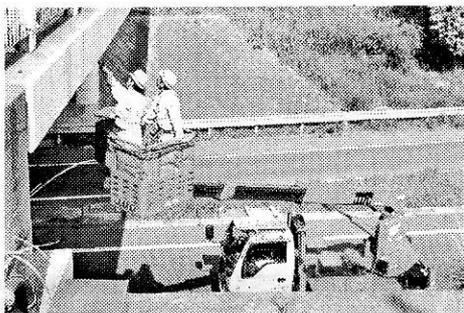
東北の市町村における長寿命化計画策定状況



財政難と技術職員不足…市町村に遅れ

一方、市町村管理の約1万1200橋のうち、約4割に当たる約4640橋が未点検となっている。当然、橋梁長寿命化修繕計画の策定も低調で、全体の約9%に当たる約990橋分しか計画がまとまっていない。

特に小規模な市町村では厳しい財政状況以外にも、技術職員の不在・不足といった課題がある。



リフト車を使った点検

整備局が各種サポート

このため、同整備局では09年度に「橋梁保全東北プロジェクト拠点を設置した。市町村などが管理する橋梁で重篤な損傷が発生し、管理者から相談や要請があった場合に技術支援や技術的課題の検討を行うほか、市町村における円滑な計画策定の支援に取り組んでいる。また、長寿命化計画の策定を終えた各県も市町村の支援を進めている。

例えば青森県では、08・09年度に「市町村橋梁緊急点検サポート事業」を展開。点検フォーラムの提供や各種研修会の開催、複数市町村が策定した計画に対する学識経験者からの合同意見聴取の場などを設けた。その結果、09年度に7市町村が計画を策定。

今年度も同事業の実施事例を参考として支援に取り組んでおり、8市町村が計画をまとめる予定だ。

他の5県についても点検講習会の開催や計画策定の指導・助言などを行っており、13年度末までにすべての市町村が計画づくりを終える方針でいる。